

---

# 一生届くことのない手紙

林辰子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一生届くことのない手紙

### 【ZPDF】

Z0812BA

### 【作者名】

林辰子

### 【あらすじ】

T・Mへ。

私は君をずっと好きだ。

君は私が好きって知ってるのに、嫌ならそう言つてほしかった。  
私のせいだつて言つてほしかった。

優しいところが嫌いだ

でも、絶対に嫌いになることなんて出来ないよ

ずっとあなたが好きでした。

これからも多分、ずっと好きです。

E・Mより。

## プロローグとして手紙を書きます（前書き）

最高に痛い恋愛小説を書きたいと思って実行しました。

読んで痛い、書いていても痛い、嘲笑してしまうような話になりそうですね。

時々現実の話、時々手紙の内容つて形で書いていきたいと思います。  
初心者故、ご容赦下さいませ^ ^ ;

## プロローグとして手紙を書くもよ

何で好きかつて聞かれたら、上手く答えることが出来ないけど

ごめん、ほんとごめん、好きになつて

始めて見たときは、別に何とも思わなかつた  
でも、今は君無じじゃ生きていけないんだ

好きなんです

知つてますか  
知つてますよね

ほんとうに  
好きなんだ

もつ君には、私の思いを伝えることが出来ないみたいだから

せめて

手紙を書かせてください

世界で一番大好きです

命をかけられるかといったら、はつきり言つてそこまではだめだ。

でも、君を超える人が現れることは無いでしょう

君は星だ

夜空に輝く北極星のよつこ、私の胸の中で輝きつづけるの

北極星は星よりも輝いてほかのどの星よりも遠くにあるんだよ

ね、まるで君のよつじやないか

私は君を自分以外の何かの中とでも大事に思つてる

でも君は??

これは、一生届くことのない手紙です

ただ、一生変わらないのは  
ずっと大好きだってこと



## 過去の話（前書き）

非常にわかりにくいくらいと思います。  
勢い任せでかきました。

## 過去の話

過去の話をさせてください。

私は、T・Mが好きです。

8円まで、T・Mの顔を知りませんでした。

11月まで、T・Mの苗字を知りませんでした。

気になりだしたのは12月です。

はっきり記憶にはありませんが、T・Mを見てくるとなんだかドキドキしたんですね。

以下、Tとしましょ。

私は、それまでUという男が好きでした。

Sは同じクラスでした。

しかし、夏休み

Sは部活のため、一回も学校の夏季講座に来ませんでした。

Sに会うためだけに学校に来ていた私にとって、Uと会うひとのや

きない一ヶ月間は辛いものでした。

一ヶ月会えなかつたら、急激に好きだとこいつ気持ちが無くなりました。

こんなものかつて思いました。

Sは初恋の人でした。

ずっと好きだ

この気持ちがなくなることはないはずだった

永遠なんてないのか。

でも、私はSをまだ好きだということにしました。

好きじやないと認めたら、何か本当に大切なものを失う気がしたからです。

Sとは話したことが無いし、同じクラスだということ以外、共通点  
がありません。

出身校も知りません。

そのままずるずると12月になりました。

12月某日

目の前に、Tが現れました。

Tは、他クラスでしたが、同じ部活でした。  
バドミントン部でした。

長身で痩せた、地味な男でした。

目が小さく、一言で表すなら日本犬のよつた顔をしていました。

Tは、部の男子の高校始めの中で一番強かつたため、女子のトップと戦わざることになりました。

女子のトップとほぼ互角だった気がします。

その時の私はなにもかも空っぽで、Tのことによく見ていませんでした。

部の他の女子は、何かしら騒いでいたような気もしました。

部活が終わって、試合を記録するノートを見ました。

### Tとトップの試合

名前は書かれているが、点差と勝敗が書かれていない。

まあいいか

その時はその程度のものでした。

結局、もやもやしたままに年が明けました。

1月

私は、疲労骨折をしました。そのせいで、一年生大会に出られなくなりました。

ダブルス大会でした。

女子部員が1人しかいなかつたので、ちょうどよかつたのかも知れませんが。

女子は、すぐに全組負けました。

私は、自分の出る試合ではないからと、あまり眞面目に大会を見ていなかつたと思います。

Tは準々決勝まで勝ち残っていました。

Tは、中学時代には県大会で表彰されるような実力のAと組まれていました。

まあ、Aが強いから勝つているんだろう。

その程度にしか思いませんでしたが、自分の学校で残っているのがその一人だけだったので、応援に行きました。

私はTをあなどっていた。

Aが強いからじゃない。

Tも強いから勝ち残っているんだ。

Tの動きは、Aにも負けないようなもので、中学時代も競技を経験してきたことを想像させました。

小学生の、

足が速いから好き

といふのと対して変わらないと思います。

でも、それまで引きずられていたらはどこかへ消えました。

私の中には、感動と尊敬と憧れと、とにかくTに対する好意があふれました。

TとAペアは準々決勝を勝ちました。

準決勝、T以外は全員中学時代競技経験者でした。

一セット目

五点差をつけられ、相手側にセットを取りました。

二セット目

十点差という厳しい状況、相手はすでにマッチポイント誰もが負けると思いました。

しかし、鮮やかにそれをひっくり返したのです。  
まるで映画のように!!

ついには、セットを取りかえしてしまいました。

会場が、学校が一つになりました。

ファイナルセット、競りに競つて、彼らは取りました。

歓喜に湧きました。

決勝まで進んだのです、未経験者が。

私には、すごいといふ」としかわかりませんでした。

決勝は、市長杯優勝のペアが相手でした。

AとTは健闘しました。

私たちも、必死で応援しました。

しかし結果は、

一セット目

2 1 1 7

二セット目

2 1 1 9

で二人は負けました。

私は本気でショックでした。しかし、感動は計り知れなかった。

興奮して、心臓の鼓動が早まつたから、それを勘違いしただけなの

かも知れない。

でも、私はその日丁を大好きになりました。

年明けに手紙を書いてはまやこでしようか。（前書き）

「私」が語りかける形です。現在の私。

重くて痛々しい女です。

年明けに手紙を書いてはまやこでしゃうか。

あけましておめでとう

去年の今頃なら出来なかつた、「あけおメール」出来て嬉しいです。

自分の電話帳に入っている人達にはだいたい送るんだけど、君のは特別なんだよ

……でも、嫌な思いさせたくないから、みんなにも同じのを送つているんだよみたいにしちゃつた

「あけましておめでとう」「わざわざ

昨年度は眞さんのおかげで、大変密度の濃い一年とすることが出来ました。

今年もとてもなく良い一年となりますように  
今年度もよろしくお願いします  
ではでは

密度の濃い一年でした…

分かってるよね??

無かつたことになんてしないでほしい

お願い、忘れないでください。

君からの返信

来ないほうが良かつたな

来なかつたら来ないで、それはそれで傷つくんだけど  
来たら、もつと傷つくから

君は返してくれた

見るのにどれだけ勇気がいるか

君以外の全員のメールを全部見る

それから見ようって思っても見られない

……やつと見れた

「あけましとおめでとう」

それだけ

はつかりいって、何が返つてくるかは分かつてゐるよ  
でも、無理してゐんじやないかな。

本当は嫌だとか、面倒だとか思つてゐんじやないかな。

最初は、私のこと少しばかり好きだったんでしょ? う?

「今年もよろしく」

つて入れてほしかったな

今年はもう、私と関わりたくないですか。

勝手に傷ついているのは私だけ、でも、こんなことをしたのは君な  
んだよ。

自覚無いよね

少しだけでいい

本当にちょっとだけでいいから

振り向いてください

あなたの優しいところが大好きです

……『めんね、好きになつて。

## 過去の話の続きを（前書き）

過去の話の続きです。

長いです。

あと、話しだ葉が統一されてないと想います^ ^ ;

## 過去の話の続きを

といつわけで、私はTを好きになつたわけです。

確信は持てませんでしたが。

Tを見ると「キヤドキ」してしまって、  
すぐに田を違つと「ひく」、Tが映らないといつへこつてしまつസで  
す。

でも、またTを見ている

それがエンドレスに繰り返されるわけです。

どこかへ吹つ飛んでしまつたには無かつた感覚でした。

AとTが戻つてきました。私たち、同じ学校全員が一人の健闘を讃  
えました。

素晴らしいかった。本当にすばらしかった。お疲れ様。

…かつこよかつた。

同じ部活の女子Rが、AとTに何か渡しました。

私が偶然、Tを見たときにRは渡したのです。

餡でした。

今までの私なら何も思わなかつたでしょう。

でもその時の私には堪えられなかつた。

どこからか分からないが、激しい憎悪が沸いて来る。

何、これは

何でこんなに腹がたつの

何でこんなに悲しいの

何でこんなに辛いの

始めて味わつた感情

ああ、これが嫉妬か。

Rは言いました。

Aくんがすごいのは知つてた。でもTくんはすごい。  
Tくんはもつとすごい。

AくんとTくんは頑張つたから飴あげたの。  
仲良くなりたい。メアド聞かなきや。

私は、なんとしてでもRを阻止しなければならぬ一息がしました。  
なぜかは分からぬ。

でも、RにTをやるくらになら、私が欲しい  
そうはつかり思つました。

しかし、Rの

AとTは頑張ったから

といふのは納得がいきませんでした。  
他の人達は頑張っていいのか??入賞しなければ頑張ったうちに  
入らないのか??

おそらく、私が疲労骨折した原因の張本人  
そして、それを目の前で放置し、おおごとにさせた張本人がRだっ

たので、ここまで思つたのでしょう。

私は間違いなくRが嫌いでした。  
Tが好きだったのも事実でしたが。

だからTを渡したくなかった、Rと馴れ合つてほしくなかったのも  
あると思います。

勝手な意地を張りました。

次の日から、Tは部内のヒーローでした。  
周りの目が変わった、といえば正しいでしょう。

すぐに元に戻るだらう、と思いました。

でも、Rはなかなか止まらない。  
私は密かに苛立っていました。

Rの口が、Tの名前を発音する形になると、激しく憎悪する憤怒する

勝手に一度も話したことのないTのイメージを作り上げ、Tを自分の物にしたいと思つていました。

渡さない、誰にも  
渡しはしない

遂に、私は一人でこの思いを抱えきれなくなりました。

TとAが準優勝して進んだ上の大会を見に行つた帰り、告げました

唯一、部活の良心と言ふべきこと。

私、Tくんが好きなんだ。

乙は、驚きました。

そして、

私がRに対して抱いている不安、試合で活躍したから好きだつて思われたくない。活躍すれば誰もいいわけではない。

思っていたことを乙に告げました。

乙は、私に笑いかけてくれました。

そうなんだ。

知らなかつたよ。

でもねー、Rはあれはすぐに黙るよ。一時の感情だから。

大丈夫だよ、あんたかわいいからーー。  
でもTくんかー。Tくんない、謎だよねー。

「なぜばゆい気持ちでした。

Nは、協力すると言つてくれました。

私は、とてもうれしかつたです。

Tの話をできる他人がいる。

Tの事を考えるだけで、私は舞い上がってしまつ

Tの事を話したら  
どうなってしまうんだろう。

私は、Tにベタ惚れしていました。

余へてなことわせ、むづかねばっこですか。（前書き）

「」しかもぐると重症ですね。  
鉛並に重い女。

余裕ないことがあれば、ぜひあわせてください。

年が明けても、会わないまま十日近く経ります。

元気ですか？？

メールは、きっと頻に嫌な思いをさせてしまつので、送りません。

ねえ、少しは我慢が出来るようになったでしょ、う？？

去年の私なら、きっとたくさんメールしてた

会えないことは、どうすれば空っぽな心が満たされるのでしょうか。

君は私の事を考えてるのかな。

きっと、私と君の想いこみ、相当なギャップがある。

それはやつぱり当たり前で、怖いかりビビリつつも田を殴りしきしま  
う事なんだけど

私は、君の事ばかり考えちやつよ

会えなければ会えないほど

その時間が長いほど

辛くなってしまうの

君に会つても、満たされることはありえないんだけど

会えなかつたら

もつともつと

満たされることが絶対にありえない

私の人生の中で、君の存在は欠かすことが出来なくなってしまった

んだよ

あーあ

こんなことなら

出会わなきゃ良かったのかなー

違つ学校を選んでれば良かったのかなー

違つ部活を選んでいれば良かったのかなー

でも、君に出会わなかつた人生なんて

死んでもいい

知つてると悪いなじ言わせて、

愛じてるよ

誰よりも、ずっと

会いたいです。

あと、答えて欲しいです

……せひぱり駄目？

未練がましい女はダメですか。（前書き）

タイトル通り^ ^ ;

私自身は、未練がましい女はダメだと思います

未練がましい女はダメですか。

8月20日

私は君から来たメールを全て消した

私が送ったメールも全て消した

君のメールアドレス

.....

手が画面の前で止まった

.....

実際、君から来たメールを消すことは、  
容易いことじやなかつたんだよ

新しいメールから古いメールを選択していくほど

辛かつた。

やつぱり君は優しいよ

君のメールアドレスを消すことなんて絶対に出来ない

8月20日

忘れもしない

君は忘れた??

そんなの承知しないから

それに、私は嘘をついた

君からのメールは消していない

データフォルダの中に…  
記録してしまっていたよ

でも、それを見ることなんてない  
今後一切

だから、私の中では消したに等しい

こんな言い訳かなあ

あの時は

人生で一番楽しかった

8月20日

あの瞬間が

ずっと続いてたらよかったですのに

あの日君は  
私しか見てなかつた



素直になつたらダメですか。（前書き）

この女は、どうもでこつたら『仮』が済むのでしょうか。

素直になつたらダメですか。

すゞく嬉しかつた！

やつひーー。

やつじだよー！

年が明けてから、

やつと君に会えたーー！

ホントに嬉しかつた

…けど、ちょっとだけ悲しかった。

学校の校門の前で細い路地から出てきた君とばつたり会つたとき

私はドキドキした

すぐに口をあらじてしまった。

君の方が、下を向くのは早かった。

何だか、その場にいるのが堪えられなくて、

雪道を走つて来てしまった。

君は、めちゃめちゃにゅうへつした速度で歩きはじめた。

君と同じクラスのサッカー部の人�が、私の目の前で、君に挨拶したとき

すいじくまづこと思った。

…でも、何とか先に学校に着けた。

君に初めて避けられた日のことは、今でも鮮明に覚えてる。

私は深く傷ついた。

私は、今日避けてしまった。

私のことが大嫌いな君は、傷つくななんて無いんだと思つ。

でも、

傷ついたのかな??

本当はおしゃべりしたいんだよ

友達みたいに話したいんだよ

でも、

どうせやらなければ無理みたいだから

自分の思いを素直に伝えるなんてことは、  
もう一度としない。

今日、君と会つことができずじく嬉しかった。

でも、すごく悲しかった。

勝手に傷ついてしまんなさい。

また明日も会えるかな

2月14日（前書き）

飛躍しました。

2月14日

私はとにかくTが好きでした。

Tを見ていただけで、

Tの話をしているだけで、

私は何をいらないくらいに幸せな気持ちになれました。

しかし、

R

あの女が、Tの名前を口にだす度に、

Tの話をする度に

私は胸が張り裂けそうになる

私は激しい怒りに燃え、どうしようもなくなつてしまつ

Tは誰のものでもないのに

ただただ、RがTに何かしでかさないかを本気で心配しました。

Nは、笑顔で

「大丈夫だつて！！騒いでんのも今だけだから！！あの一人が付き合つなんて有り得ないし！！」

ひたすらに私を慰めてくれました。

私は、どれほどRを憎く思つたとしても、

Tがどれほど愛しかつたとしても、

何も出来ませんでした。

「の近くで、『キドキ』

自分が自分じゃないみたいだ

むく呼吸がしきくなる

私は、君の前じゃ無力だ。

君は、何もせずに、私から全てを奪ってしまう

喜怒哀楽全て君次第になってしまつ

それに、君にはそんな自覚はない…

私は今言いました。

このままだとさがにまないこと、焦る気持ちがあつたのだと思いま

す。

2月14日、Tくんにチョコレートをあげたい

そんなの、生まれて初めてでした。

家族以外の異性に、プレゼントなどしたことがありませんでした。

まじで…

バレンタインティー

その時の私には現実味が感じられませんでしたが：

うん、分かった！！

協力するよー！あんたの言われた通りに行動してあげるー！

バレンタインデーかー、いいなー、あたしも好きな人欲しいよー

Nは、いつも私を元気づけてくれました。

きっと、Nのおかげでこんなにも丁に恋愛感情を抱いた、今ではそう思います。

乙は、丁のペアのAと同じクラスでした。

そして、唯一女子の中でAとともに会話できる人でした。

だから乙に言つた…

否定は出来ませんでした。私は乙を利用しようとしたのか??

…ただ、一緒に騒げる相手が欲しかつただけなのかも知れません。

乙は、Aに頼んで丁を呼び出すことを提案しました。  
私もそれがいいと思いました。

丁を呼び出して、私が渡す。

地に足がつかないような、夢のような感覚でした。

2月1-3日

私はその年、今まで生きて来た中で一番多く焼菓子を焼きました。

フオノンダンシヨウ パリ

中に熱いチョコレートが入っている、ショコラケーキのようなものです。

クラスの友人、  
部活の先輩、

塾の先生、

部活の女子、

顧問、

そして T

40個はぐだらなかつたと思ひます。

その時期はテスト前だといひのと、私はかつてなく働きました。

私はノートたくさんメールをしました。

畠田のことをたくさん

2月1-4日

その日は土曜日で

土曜日も午前中授業があつて

よく晴れた寒い日でした。

私は、部活前に先輩にチョコレートを渡すため、学校中を走り回りました。

Nが、部活が始まる前、私に手紙を渡してきました。

やあー今日のことなんだけば、ちゃんと頼んでおいたよ！協力してくれるつて  
だけど渡すのがんただつてことばれちゃつたんだ…。

Aくん、ふたりのことお似合いだつて言つてたよ  
で、部活終わつてから“例の場所”で待つてくれるみたい。

Aくんも見に行くようなこと言つてたけど…（笑）  
でも渡すときは一人きりにするからー！

こんなんでいいかな？

くどいよつだけば昨日メールで言つたことをもつかい言つね。  
めちゃ緊張すると思つたけど、一言一言はなんか言つて、落ち着いて  
渡せ！

「来てくれてありがとうございます。これよかつたら食べてください。」とか言つてね、一番いけないのは黙つて渡す。投げやりにな  
ること。

自分のことだけで精一杯になっちゃうと思つたけど、相手の気持ちも  
考えてね。

あんたなら大丈夫、できるよー！  
へりびりへりびり

手紙を部活中、読んで

私は泣きそうになりました。  
ありがとうございます、乙。

本当に私は…恵まれていたんだと思います。

部活は、男子の方が早く終わってしましました。

私たち…

片付けをし、先輩が帰るまで待つていなければならぬ

ただ、時間だけが過ぎていきました。

Aと乙は体育館を去りました。

私は、一人で終わった気になっていました。

先輩がかえり、

部員たちを先に帰らせ、同じ帰り道の部員を振り切り、  
それでも乙と私に一人、丁と同じクラスのBがついてきてしまいま  
した。

Bは何も知らない。

下駄箱、自転車を二台

Aと丁が止めて待っていました。

でも……Bがいる

私は一人の前を素通りしてしまいました。  
Aが私を振り返って見る。Tも。

私は、もうダメだった。

私たちは、AとTに見えない下駄箱の裏に行きました。

というか、私が行つてしましました。

Nが、

もういいよ、しかたない！！Bいるけど分かつてくれるから！！渡  
せ！！

と言いました。

予定では余裕でした。

でも

予定では

涙が溢れて

止まらない

何で、何が悲しいのかも分かりませんでしたが、

大粒の涙がただひたすら流れつけました

Bは、動搖しました。

どひつたの？…あ…！

Bは悟りました。

あたしもしかしてすゞこ空氣読めなかつた？！

ごめん…

…え、Aくん？？

私は首を振りました。

……トくんか……「めん……

乙は、私をせかしました。

ねえ、待たしてるよー！  
渡すなら今しかないよー！

私は出来ないと、乙に首を振りました。  
実際出来たとしても、泣いてちゃトもいい気がしなかつたと思いま  
す。

……あたしが渡して来るか？？  
無理なの？—  
……

私は、Nに頼んでしまいました。

なんて弱いんだ。

私は自分自身が大嫌いでした。

Nは、かわりに渡してくれました。

…渡してきたよ、ありがとうって

…うん、ごめんな、ホントごめんな、  
ありがとうございます…

うまくいかなかつた

後悔の嵐でした。

三人で下駄箱を出ると、さつきの場所からAとTはいなくなっていました。

空っぽな気分でした。

でも、鼓動が早まる

何だか熱っぽくて気持ちが囂る

変な感覚でした。

NとBに別れを告げました。

おじく謝りました。

家についたら、何だか夢から覚めたような気分

ケータイを覗いたら、

知らないアドレスからメールが来ていました。

Tでした。

思い続けるって結構辛いんですね。（前書き）

「へん…特に…！」

思い続けるつて結構辛いんです。

十年偉大なり

一十年おやめべし

三十年にして歴史なる

続けるつて大変なんだよ

ホレく難しい

君の事、一日二回向うへてみると毎日へへへ

全然わからないや

でも、寝て起きて、  
君のことがまだ好きだって分かったとき、  
少しだけ安心する。

いつか好きじゃなくなる時がくるんじゃないかなって  
怯えている。

だつて人の気持ちに永遠なんてないから

ものすいぐ、狂いそうなくらい君が好きだつて思える日

ちょっととしか君に好意を感じない日だつてある。

毎日、全部が全部同じ「好き」じゃないんだよ

どれだけ長い間、どれだけ強く思い続けたとしても、

いつか終わらはやつてへる。

その日まで、私は君を好きで呴続けます。

好きです。

好きで呴続けるのって、すごく大変なんです。

君には分かるかな

## 有頂天（前書き）

まさに有頂天  
この女の人生のピーク

## 有頂天

知らないアドレスからメールが来ていました。

Tからでした

私は…紅潮しました。

チョコレートの中に忍ばせていた私のメールアドレスに…ちゃんと返してくれた

私はその嬉しさに有頂天になりました。

Tです。

チョコありがとうございます、美味しかった。

明日も部活、お互い頑張ろう

私は今にメールしました

「くんからメール来てる……！」

返信はすぐにきました。

マジで？！返してくれたんだ、優しい…！  
とうえず、待っててくれたこと礼言つとけ…！

私は、すぐに今に言われた通りに返信をしました。

「ありがとうございます、メールしてくれてすごいうれしい  
てゆーか、めっちゃ待たせて」「めんなさい

返信はすぐに来ました

全然待つてない、大丈夫

夢見心地でした。私が、あの大好きなTとメールしているなんて

私はNにメールしました。

Tくん全然待つてないとか言つてくれた…

絶対待つたよね…

N、ホントにありがとう

Nはすぐに返信してくれました。

優しい〜！！

よかつたよかつた、あたしもうれしいよ。

何回か、TとNにメールしました。

すぐに時間が過ぎて行つた気がしました。

テスト近いけど勉強してる？？

してない。まだ大丈夫

そつか。私もしないや

数学のメネラウスの定理つてわかる？？

わかんない

オレ数学の時間寝てるから

ホントに？！数学怖くて寝れないや

行きたい大学とかあるの??進路希望みたいな紙出さなきゃいけないよね

あー、そんなのあつたなー  
オレはS大行きたいかな

すごい、ちゃんと決めてるんだねー  
私何にも決めてない

.....

何でこんなに初めてメールした人に勉強の話ばかり振ったのか…

しかも、テスト前に…

私は熱っぽくなっていました。

正常な判断が出来ていなかつたと思います。

今日はありがと、明日も部活あるからもつと寝ます。  
またね

Tがそりそり、メールのやり取りは終わりました。

夢のよひだった

何だか空っぽになつた感じがしました。

その後、私はTにメールしました

「くんとメールしてて、夜遅いからアチャラセちやつた

またねだって。

今日はホントにホントにありがとうございました

乙からの返信

あ~り

まあ、よかつたじゃん??

直接渡せなかつたけど。

またなんかあつたら言つてよ。

うん、また頼るね  
とにかくありがとう

その日の夜は、目が信じられないくらいに冴えました。

でも、頭はなぜかボーッとして

具合が悪いわけじゃないのに

何も変わらない夜のはずでしたが

2月1-4日の夜

一番青春を感じた時間の一つと記憶しました。

田は冴えていたのに、なぜかすぐ隣で落ちる人が出来ました。

これから…どうなるんだろうな

2月15日（前書き）

有頂天のそれから。  
この女はどうなるのでしょうか。

2月15日

朝、ケータイのアラームが鳴る前に目が覚めて、

私はケータイを覗きました。

…メールの履歴

私は本当に一とメールをしていました。

夢じゃなかつたといふ安心感と同時に、

直接渡せなかつたといふ後悔

とこゝか私は何て恥ずかしごとく飛んだ」としてしまつたんだろ  
うと羞恥心に駆られ

これが「ひじりすればよこ」のだらつと、不安になりました。

それでも向だかドキドキして、

私は普通じゃなかった

学校に着きました。

こつもと変わらな

：よかつた

朝のホームルームが終わり、私は隣の席で、同じ部活のGに話し掛けられました。

ねえ、聞きたいことがあるんだけど

Gは半笑いで私に言いました。

美しい顔立ちのGの美しくない笑顔

Gが「こうこう顔をして

聞きたいことがあるんだけど  
だなんて

…やつぱり広まつたのか。

私は他人に言つたつもりはないし、Tに口止めしてないから…  
ああやつぱりTが言つたんだ。

そう思つて私は

…ああうん、隣のクラスの人の事でしょ

Tは言いました。

Tは私の隣のクラスでした。

Gは満足げに笑了。

ああホントだつたんだ！あたしづつとあなたはSくん一筋だと思つてたから

あはは…うん、やうだね

Gは、私がSを好きだつた当時、相談していました。  
でも、結局Sに対して何も出来ず、  
Tを好きになつたときも軽いと思われたくない、今まで相談してきましたのに申し訳ないと思つて、私はGには何も言いませんでした。

言ってくればよかつたのにー

ごめん

…言えるわけがありませんでした。

ちなみにKちゃんも知ってるよ

Kは同じクラスで部活も同じ、とても噂好きですがいい人でした。

この人は…！まさかKにまで言つたのか  
Kは確かにいい人だ。分かつてはいましたが…

私は軽く自暴自棄になりました。

ああ、そんな驚かないで。Kちゃんは絶対言つたりしないから

Gは半笑いを辞め、いつもの調子で会話をしていました。

でもねーすごいことしたよねーなかなか

私は覚悟を決めました。

絶対ダメだろうと思いましたが。

誰から聞いたの？！

Gは一瞬固まりました

：んー、誰だっけな、忘れちゃったな。

絶対隠している。

私は一瞬で悟りました。

私もなめられたものだな。

でも、私には深く追及するほどの勇気など存在せず、

：まあ、だいたい出所は予想がついたので、それ以上に聞こうとは  
思いませんでした。

と思つた矢先

Gは口を開きました。

私とKちゃんは、その人から聞いた後、Mくんに聞いたの

え

まさかの人物名に驚きました。

M

同じ部活の、やたらになれなれしい男子でした。

Mくん？！何で

Mくんは誰に聞いたの

Gは答えてくれました

本人から直接らしいよ。

あんたからチヨ「渡されたつてTから言われたんだけどホントに?  
!つて

あたしとKちゃん知らなかつたから驚いた

今思えば、前後で会話が矛盾していましたが、動搖していた私にそ  
んなことは判断出来ませんでした。

Mくん…絶対人に言ひじやん  
てゆーかTくんも言つてる時点でアウトだよ……  
ああ終わつた、もうダメだ。

心の底からそう思って、私は口にも出していました。

Gは、

Mくんにはちゃんと口止めしどこから、言わないでつて  
だから大丈夫だよーー

そんなに簡単に信じて良いものなのでしょうか。  
私は不安で不安で仕方がありませんでした。

知らぬ間に授業開始時刻になり、時刻が始まりました。

私は自己暗示をかけました。

…そういう噂ほどよく広まるんだ

人の噂も7・9日つていうじゃないか。

それに、目立たない私の色恋沙汰に興味を示す他人などいない

大丈夫、大丈夫

それから、移動教室で校内を移動しました。

Tと、

メールしてから初めてすれ違いました。

階段で、Tはクラスの友達と移動教室から戻つて来るところでした。

私は、何とか挨拶をしようと試みました

…あ

息を吸い込んだ時

Tは私から目を反らして  
下を向いてしまいました

…

私は挨拶をしませんでした。

Tに避けられました。

軽くショックを受けました。

初めて避けられた

氣のせいだと思いたい

でも…あれは絶対避けた

避けられなかつたところで、私はTに声をかけるだなんて出来ませんでしたが。

…ああ、ホントにあつたことなんだ。

2月14日の出来事が、改めて現実味を増してきて、  
私は何だか具合が悪くなりました。

それまで私のことなど知らなかつたTが、

私と普通にすれ違つっていたTが、

夏休みには業務連絡ながら普通に会話できたTが、

私を意識的に避けるなんて

2月15日

私はTに初めて避けられました。

あの時の緊張感、Tの表示、ズキズキとした心の痛み

私は忘れることが出来ません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0812ba/>

---

一生届くことのない手紙

2012年1月8日23時47分発行